

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104308
法人名	有限会社メディカルサポート
事業所名	グループホームわかば
所在地	愛媛県松山市若葉町7-6
自己評価作成日	2010年11月29日

※事業所の基本

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・一人一人の利用者が得意なことを活かしながら生活できるよう支援している。 ・楽しい日々が送れるよう援助している。

●事業所ではこの1年、利用者が地域の中で生活しやすくなるよう「地域との関わりを拡げていく」取り組みに力を入れて取り組まれた。毎朝、職員がホーム周辺の清掃を行い、ご近所の方や出会う方とあいさつを交わし、まずは「事業所を知ってもらい」取り組みをすすめておられる。地区の運動会には、利用者用の見学席を設けてくださり、利用者も競技に参加された。事業所での敬老会には、地域のボランティア「ひまわり会」の方々が来てくださり、歌や日舞等を披露してくださった。近隣の方の中には「何か手伝えることはないですか」と声をかけてくださる方もあり、椿祭り等、外出時の協力をお願いされている。12月に事業所で行うクリスマス会には、地域の方も招き、利用者と一緒に楽しんでいただけるよう企画しておられる。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

GHわかば

(ユニット名)

3F

記入者(管理者)

氏 名

森 莉映子(主任)

評価完了日

平成 22 年 11 月 29 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			各階（フロア）の目につく場所に掲示し、実践できるように意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(外部評価)	
			開設時より「人生の継続性を大切に、自分が自分として生きていく」と理念を掲げて、パンフレットやホームページにも示しておられる。事業所ではこの1年、利用者が地域の中で生活しやすくなるよう「地域との関わりを拡げていく」取り組みに力を入れて取り組まれた。このような取り組みをすすめたことがきっかけになり、事業所では、さらに地域とのかかわりを深められるよう「理念を見直していきたい」と考えておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			施設周囲の清掃活動を通じてふれあいを持ったり、地域行事（盆おどり・運動会・三津地区防災訓練など）や運営推進会議に参加して頂き情報をいただいたり、交流できるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(外部評価)	
			毎朝、職員がホーム周辺の清掃を行い、ご近所の方や出会う方とあいさつを交わし、まずは「事業所を知ってもらう」取り組みをすすめておられる。地区の運動会には、利用者用の見学席を設けてくださり、利用者も競技に参加された。事業所での敬老会には、地域のボランティア「ひまわり会」の方々が来てくださり、歌や日舞等を披露してくださった。近隣の方の中には「何か手伝えることはないですか」と声をかけてくださる方もあり、椿祭り等、外出時の協力をお願いされている。12月に事業所で行うクリスマス会には、地域の方も招き、利用者と一緒に楽しんでいただけるよう企画しておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に一回の運営推進会議に地域の方（町内会長・民生委員等）に参加して頂き、施設の近況や皆様の意見に応え、ご理解して頂けるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に一回の運営推進会議を行い、施設行事などの報告をし、参加者からは地域の行事を知らせて頂いたり、ご意見をいただき、活かせるようにしている。	
			(外部評価)	
			この一年、事業所では、管理者とケアマネージャーが会議の1週間ほど前に、町内会長をはじめ町内の役員や民生委員、近隣のお宅を回って会議の案内をする等、地域の理解と協力を得るために、地域のいろいろな立場の方に運営推進会議に参加していただけるよう努力された。昨年は、地域からの参加者は4名程度であったが、今年11月の会議時には11名の参加をいただき、地域の情報も多くいただけるようになったようである。地域の方は、地区の運動会や文化祭等の行事予定や「大可賀公園は、もみじが見頃」等、ドライブに良い場所等を教えてくださっている。又、ボランティアの方の輪も広がって来ている。会議では、介護度別に利用者数を報告したり、実地指導や職員研修内容等の報告、行事の様子を伝えたり、今後の予定等についても説明されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			2ヶ月に一回の運営推進会議には必ず参加していただいている事その他、ボランティアに来ていただいたり日頃から電話や出向いて連絡を密にとり、コミュニケーションに取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			市の担当者には、運営推進会議に参加していただき、11月の運営推進会議では、インフルエンザやノロウイルス対策について、資料の提供や説明をしていただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			夜間以外は、玄関の施錠をせず、安全に注意しながら見守り出来る様に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			「買い物に行って来ます」と、一人で出かける方には、職員がそっと見守りながら同行されている。夜間、居室で転倒する危険のある利用者には、布団に鈴を付けてあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ファイルを作成し、職員同士が注意しあいながら対応している。外部講師による社内研修を毎月行い、2011年2月の研修では身体拘束の高齢者虐待について研修いたします。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解できていない職員もいるため、2011年1月の外部講師による社内研修において、利用者の権利と尊厳の理解について研修いたします。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明をし、又、改正等については、説明と共に必ず同意書をいただきご理解の上で実施させていただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域の方、行政、包括等の参加による会議の中、ご家族出席も必ず呼びかけ、できるだけ参加をして頂くと共に、ご意見・ご感想等をいただき運営に反映している。 (外部評価) 毎月発行する「わかば便り」は、ユニット毎に作成してご家族に送っておられる。さらに、利用者個々の担当職員がご本人の暮らしぶり等を手紙に書いて同封されている。担当職員宛にお返事の手紙をくださるご家族もある。5月に管理者が交代された際には、お便りの中でお知らせしたり、電話でも報告された。運営推進会議には、4名ほどのご家族の参加があり「専門的な知識を持って対応してもらっているので安心しています」等、感謝の言葉を話してくださっている。職員の顔と名前がわかるように、各ユニットの掲示板に全職員の顔写真と名前を掲示されておられるが、ご家族から「名札をつけてほしい」との要望があり、名前を入れたエプロンを着用しているユニットもあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			主任会・各階フロアミーティングを行い、職員の意見を聞き、反映できるよう話し合えるようにしている。	
			(外部評価)	
			毎月のミーティング時、又、日々の中でも職員はケアについて意見交換をされている。職員から出た意見は「まず、試してみる。」ようにされている。事業所では、6月より毎月、外部から講師を招き研修を行っておられ「食事介助の研修」時に学んだ、食事用エプロンを利用者に着ける際「エプロンをかけていいですか。」とご本人にお聞きすることや、食事前に歌を歌う等の口腔体操を採り入れておられるユニットもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			主任会、各フロアミーティングに出席、さらに個人面談も実施、状況を把握し職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			月/一回、外部講師による施設内職員研修及び事務所より研修の案内があれば、職員全員が見られるよう掲示してもらい、参加出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			ケアマネ連絡会や民生委員さん等にデイサービスの休館日を会議場として活用していただき、交流するよう機会を作り、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に訪問や面会し、情報・生活環境の情報を収集し、安心して生活して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を行い、サービスの利用を開始する前に、ご家族の話の聞くと共に、施設についても不安の無いよう十分な説明を行い関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査による十分な説明により支援のあり方について、本人・家族がご理解されるように努める。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事など、それぞれの方が得意な分野を活かしながら生活をしていけるように援助している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 連絡を密にとり、電話連絡・運営推進会議において、毎月利用者の現況報告手紙等、利用者と家族を中心に職員が支えあっている関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家具など自宅で使用していたものを持って来て頂き、使用するようし、家族だけでなく、近所の方、友人の方も面会に来て頂いている。 (外部評価) ご家族に手紙を出す方がおられ、職員は、利用者が書いた手紙を「ポストに出す」等、お手伝いされている。携帯電話をご自分で持たれており、ご家族と自由にお話する方もいる。茶道の先生をされていた方は、時々お弟子さんが来られて、季節の和菓子と抹茶を楽しまれる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 洗濯物や掃除など、出来ない方の分を得意な方に手伝って頂き支えあった生活ができるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用を終了してもこれまでの関係を大切に、本人や家族の経過フォローをし、支援ができるように努めている。何かあれば相談できるように努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話の中で聞き出し、希望を叶えられるようにしている。本人の訴えが少ない方は、面会時など家族の方から話を聞き把握できるよう努めている。 (外部評価) 入居時に、利用者個々にフェースシートを作成して、そこに、食事や排泄等の「日常生活動作」又、買い物や家事等の「手段的日常生活動作」について、情報を集めていくようにされている。日々知り得た情報は「連絡ノート」に記録するようになっている。調査訪問時、居間には、クリスマスツリーが飾られてあり、クリスマスにプレゼントして欲しい物を書いて壁に貼ってあるユニットもあった。	利用者の中には、「毎日退屈」「生きているのがつまらない」等というような思いを持っている方もあるようだ。又、管理者は「声に出せない人の思いをどう引き出すか、今後の課題である」と話しておられた。事業所の理念に沿ったケアの実践に向けて、日常の生活、例えば日中の過ごし方や入浴の好み・習慣等、利用者個々の思いや意向について細かくアセスメントに取り組み、利用者一人ひとりの「自分が自分として生きていく」ことに向けた支援に努力していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、入所時にフェイスシート・アセスメントを作成し、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 体力など急激に低下しないよう現状を把握し、生活できるよう気をつけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			職員同士、ミーティングや連絡ノートに記入し、情報を伝えあい、カンファレンスにて家族も交え話し合い、よりよいケアができるように作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、基本的に6ヶ月毎の見直しをされている。計画作成前にはカンファレンスを開き、ご本人やご家族にも参加していただき、ケアへの希望等を聞き取っておられる。参加することが難しいご家族には、電話で聞くようにされている。それらを踏まえてケアマネージャーが計画の原案を作成し、職員からの意見等も聞きながら介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			毎日の介護記録以外にも、連絡ノートや申し送り事項を記入できる用紙を使用し、情報を共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ケアプランの見直し等、家族を含めたアセスメント・カンファレンスにより、その時々生まれるニーズに対応した柔軟な支援に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			消防署協力のもとホームの避難訓練を実施したり、地域との防災訓練に参加させて頂くなどし、地域資源との協働に努めている。又、民生委員・ボランティア等による行事への協働にも努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			協力医療機関の往診を受けているが、入所前から通院 されている病院がある方は、家族と話し合い希望にそ えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			変化があれば報告・相談し、対応できるようにしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。または、そうした場合に備えて病院関係者との 関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			情報収集し、主治医や家族の方とも相談し、対応でき るように努めている。又、面会に行くようにしてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族の方と十分話し合い、今後の方針をしっかりと決 め、取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	(外部評価)	
			入居時に、事業所で看取り支援が可能であることをご家族 に説明されている。状態に変化があった場合は、医師の判 断をご家族に伝えて、終末期のあり方について、ご家族に 希望を聞くようにされている。現在、事業所で終末期を過 越されている方がおられる。最期まで口から食べることを支援 されており、ミキサー食にしたり、ご家族とも相談しながら経 腸栄養剤で補うこともある。急変時だけでなく、職員が不安 に思う時等、いつでも母体病院の院長と直接連絡が取れる 体制になっており、職員は心強く思っておられる。	利用者の終末期のあり方についての思いや意向を探った り、ご家族と職員で一緒に勉強するような機会等も作って みてはどうだろうか。事業所の理念に沿った支援が実践でき よう、早い段階から話し合いを行う機会を作ってみてはど うだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応について看護師がいる為、指示を あおいだり、往診時Drに指示を仰いだりしている。 又、東村内科医院と医療連携契約を行っており、24時 間急変や事故発生時の備えはできている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施し、緊急連絡網を作成し、連絡できるようにしている。地区の防災訓練にも参加させて頂き協力体制を築いている。2009年・2010年の三津地区防災訓練は、当施設に地域の方・消防署員等参集し、当利用者を救助する訓練が行われている。 (外部評価) 11月にはスプリンクラーを設置された。事業所で夜間想定 の避難訓練を行った際には、地域の方にも利用者の避難 誘導のお手伝いをしていただき、感想等をいただいた。地 区の防災訓練に参加した際には、地震を想定した訓練が行 われ、地域の方には、利用者を地区の避難場所である小学 校まで誘導する協力をしていただいた。事業所では今後、 緊急連絡網に地域の方達も加わっていただきたいと考えて おられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) それぞれの方にあった声かけや対応ができるよう、情報収集し、気をつけながら対応している。 (外部評価) 職員は、利用者が今「何をしたいか」「何を望んでいるか」と考えながら、日々ケアに取り組んでおられる。居室の入り口には、のれんを掛けておられるが、居室の中の様子が見えてしまうようなことがあったり、又、トイレ誘導時等、職員の配慮が必要と感じるような言葉かけや対応の場面があった。	この機会を利用者の立場に立って、ケアや環境を点検する機会にされてはどうだろうか。居室の出入り口については、利用者の安全を確保しつつ、個々のプライバシーを守ることができるような配慮や工夫はないか、職員で話し合ってみてほしい。又、職員の利用者に対する言葉かけについては、利用者との信頼関係のもとではあるだろうが、職員同士で点検したり気付きを出し合ってみてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) わかりやすい言葉を選び声かけをしたり、本人に選んでいただけるよう選択肢を作り、声かけするなどし、自己選択ができるよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床・就寝時間や食事など本人の生活リズムがくずれないよう気をつけながら希望に沿った生活をして頂けるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室の方に来ていただいたり、近所の散髪屋に行き、髪を整えたり、季節に合わせながらオシャレができるよう、家族の方と連絡を取りながら服など準備できるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の会話の中で、好きな物を聞き取り、献立を相談し、決めるよう気をつけている。食器洗いや調理も声かけし、手伝っていただくこともある。 (外部評価) 「利用者に希望のものを食べていただけるよう」献立は、その日に利用者と職員で相談して決めておられる。お寿司やカレーライス、お好み焼き、焼きそば等を好まれる方が多いようである。食材は大きさ等、食べやすさに配慮して切り方にも気を付けておられる。利用者の中には決まった時間に、台所に来てお米を研いでくださる方がおられる。又、ごぼうのさがき等、食材の下ごしらえをしてくださる方もいる。調査訪問時、職員が利用者の名前を告げると一人の利用者がその方の席にお膳を持って行ってくださっていたり、個々でお膳を下げる利用者の様子もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量をはかり、脱水にならないよう気をつけている。無理なく食べて頂けるよう、盛り付けの量をそれぞれの方に合わせている。水分はそれぞれの方の好みのものも、用意し対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分では難しい方は、介助誘導し、口腔ケアをし、出来る方は、声かけし、歯磨きをして頂くよう気をつけている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄記録を記入し、排泄パターンを理解し、定期的にトイレに行けるよう誘導や声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			午前中の飲み物やおやつ時には牛乳を使用するよう心がけ、食物繊維の多い野菜を食事に使用したり、水分不足にならないよう気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週／2回は、入浴して頂けるように、声かけを行い、体調に合わせて本人に決めてもらい対応している。入浴されない日が、続いた時には、足浴・清拭で、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			基本的には、週2回、午後から入浴していただいている。ご希望で、毎日のように入浴される方もある。月に1度、ご家族と温泉に行かれる方がいる。	
46			(自己評価)	
			昼夜逆転にならない程度に、疲れた時にはお昼寝をしていただいたりできるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬局でもらっている薬情報を介護記録にもファイリングし、目を通し確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事など得意な方には職員と一緒に掃除機かけや洗濯物をたたんだり、干したりして頂いている。好きな曲などを教えて頂き、カラオケをしたり、一緒に歌うなど楽しめるようにしている。嗜好品は個別に購入し、希望にそえるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に合った日には天気や気温に気をつけて散歩や買い物等、外出、出来るよう努めている。外食へは、ご家族様の協力を得て対応している。 (外部評価) 利用者個々、週1度は、近くの公園に散歩に出かけられるよう取り組んでおられる。「外へ出たがらない利用者」もいるようだが、少しでも外気にふれることができるよう、ベランダでひなたぼっこをすすめておられる。車で地域の行事に出かけたり、近くのスーパーで買い物したり、伊台へ紅葉見物にドライブすることもある。	今後「年間行事の予定を決めて、外出支援をすすめていきたい」と考えておられた。又、職員は「もっと外へ出たい」「みんなで出かけたい」と話しておられた。ご家族やボランティアの方等の協力を得ながら、利用者が外に出て生活を広げていけるよう、外出支援に工夫を重ねていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族とも相談し、本人が管理されている方もおられる。買い物に一緒に行った際には金銭の扱う行為を持って買い物の残存能力を維持していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロアの電話を使用して頂きいつでも電話出来るようにしている。手紙を読むことが出来ない方には、職員が読むようにし、やり取り出来るよう支援している。居室に携帯電話を持たれており、ご家族と連絡をとられている方や、ご家族様と手紙のやり取りされている方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			外からの光はカーテンを使用し調節し、季節を感じていただけるような掲示物を作成し掲示している。	
			(外部評価)	
			事業所の裏には畑があり、11月には利用者と職員でさつまいもを収穫された。居間の一角に神棚が設置されており、毎朝お水を替えてくださる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			独りになれるようソファを少し離れた場所に1つ設置している。	
			(自己評価)	
			昔から使用していた家具を使用できるように本人・家族と相談している。居室内の物の配置も変えたいとの要望があった時にはその都度対応している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(外部評価)	
			ご自宅で使っておられたタンスを持ち込んでおられる方もいる。ご本人が書いた習字の作品やご家族の写真飾っている居室もあった。写経を日課とされている方や新聞・小説を読まれる方もいる。シーツは毎日一人ずつ交換されており、9日おきの交換となっている。汚れた場合は、その都度洗濯されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			トイレの入り口に表札をつけたり、工夫している。	